

平成 29 年度

卒業式

宮城県塩釜高等学校

3月1日（木）宮城県塩釜高等学校の卒業式が挙行されました。旧男子校と旧女子校が統合されて8回目となる卒業式は、前日からの暴風雨にも関わらず、本校PTA会長・同窓会長を始め、多くのご来賓並びに保護者の皆様をお迎えして粛々に行われました。

竹内 透 校長は、サンテグジュペリ著『星の王子様』をもとに式辞を述べられました。



「王子は、自分の星で1輪のバラの花を育てました。王子はバラの花とけんかをしたことをきっかけに、他の星に旅に出ます。その山々や木々やバラの花々を見ると、自分が育てた1輪のバラの花が、とてもちっぽけなものに思えました。王子様はそこでキツネに出会います。キツネは王子に、『あたりまえにあるものが、実は自分にとって特別なものであり、時間をかけて接することで見方は違ってくる。』と話します。それを聞いて、王子は考え方を改めます。王子は、自分が精一杯世話をしたバラを愛おしく思うようになり、自分に

とっての『特別な花』なのだと悟ります。王子は、数千本の美しいバラの花も、自分が育てた1輪の大切な花と比較すれば、ただの花にすぎないと考えようになりました。

竹内校長は、「卒業生の皆さん、あなたには特別な存在がありますか？」と投げかけられました。特別な存在になるには、多くの時間を割く必要があります。塩釜高校には1200人の生徒と100人の職員がいます。すべての人ではないにせよ、皆さんにとって、この塩釜高校で一緒に過ごした特別な存在であったのではないのでしょうか。これから先、「幸せになる秘訣は、社会に出てからの自分にとっての特別を見つけることです・・・」と述べられると、卒業生は真剣な面持ちで校長先生の式辞に傾聴していました。



卒業生代表の佐藤響くんは三年間を振り返り、クラスの仲間と塩竈神社へ行ったことやバーベキューを行ったこと、塩高祭や体育祭でがんばったこと、目標をもって部活動に励んだこと、総合文化祭や南東北インターハイに参加し協力して成功させたこと、進路活動で先生方に指導していただき目標を達成しようと努力したことなど、様々な思い出について答辞を述べました。

校長先生がおっしゃったように、卒業生の皆さんが塩釜高校で関わった友人や先生方が、皆さんにとって特別な存在であってくれば幸いです。

—卒業おめでとうございます！—

(次ページに画像があります)

<総務部作成>

